様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２４年６月１４日現在

機関番号：21301
研究種目：若手研究(B)
研究期間：平成 22 年度～平成 23 年度
課題番号：22792188
研究課題名（和文） 乳がん術後患者のリンパ浮腫発症予防における継続的なセルフケア支援プログラムの検討
研究課題名（英文） Considering Continuing Self-Care Programs to Prevent Lympatic Edema in Postoperative Breast Cancer Patients
研究代表者　鈴木敦子（SUZUKI　ATSUKO）
宮城大学　看護学部　助教
研究者番号：60527901

研究成果の概要（和文）：
乳がん術後患者のリンパ浮腫発症予防における継続的なセルフケア支援プログラムの検討に対する示唆を得るため、患者教育の実態と患者教育に携わる看護師の認識について、日本乳癌学会認定・関連施設に所属する看護師を対象とし、自記式質問紙調査を行った。その結果、患者教育の個別指導実施率やリンパ浮腫指導管理料算定要件に沿った教育項目の実施率は高かったが、入院中の実施に留まっていた。また、所属施設内教育の浸透度や患者教育の現状に関する認識は、継続的支援実施の有無により差が認められた。プログラム検討にあたっては、発症予防の観点から教育項目を抽出するとともに、連携強化、患者教育に携わる看護師への教育充実を検討していく必要性が示唆された。

研究成果の概要（英文）：
Nurses belonging to the Japanese Breast Cancer Society, and its other related affiliates, were given self-administered surveys to gain insight on self-care programs that help prevent lymphatic edemas in postoperative breast cancer patients. The surveys focused on patient education and nurse awareness. The results of the survey indicated that nurses provided one-on-one sessions and followed medical care remuneration checklists provided by the Ministry of Health, Labour and Welfare with high rates, but only while the patient was hospitalized. The quality of education and the level of patient education awareness also contributed to differences in continuing self-care programs. When considering a program, the findings suggested that, in addition to selecting effective educational materials for preventing lymphatic edemas, it is also necessary to provide nurses with additional training.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
平成 22 年度	700000	210000	910000
平成 23 年度	500000	150000	650000
年度			
年度			
年度			
総　計	1200000	360000	1560000

研究分野：医歯薬学
科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学
キーワード：リンパ浮腫、乳がん、セルフケア、がん看護、継続的支援

１．研究開始当初の背景
がん患者においては、さまざまな症状や治療により、生活の変化やＱＯＬの低下を余儀なくされるが、中でもリンパ浮腫はがん患者

のＱＯＬを著しく低下させる症状の一つであることが明らかにされている[1)2)]。特に上肢におけるリンパ浮腫は乳がんがそのほとんどを占め、原発性乳がん手術症例でのリンパ浮腫の5年累積発症率は31.9%に上ることが報告されており[3)]、乳がん手術治療後の患者においてリンパ浮腫発症予防のための支援は非常に重要であると言える。

リンパ浮腫発症予防に関する明らかなエビデンスはないものの、予防行動に関する知識の獲得と活用はリンパ浮腫の予防に貢献することが明らかになっており[4)]、周手術期からのセルフリンパマッサージや日常生活上の注意点、リンパ浮腫の早期発見に向けての患者教育の重要性が報告されている[5)6)]。また、入院期間の短縮化やがん告知後の患者の背景を加味し、入院中のみの指導に留まらず、継続的支援の重要性が示唆されている[7)]。

これらの学術的背景を鑑み、平成 20 年にリンパ浮腫指導管理料の新設、さらに平成22年度の診療報酬改定により、退院後翌月までに再度指導行った場合「リンパ浮腫指導管理料」が退院後も1回に限り算定できることとなり、保健医療制度の改革とともに、乳がん患者を取り巻く現状が大いに注目されている。しかしながら、診療報酬新設以降のリンパ浮腫発症予防のための患者教育や継続的支援を焦点とした現状報告はこれまでなく、リンパ浮腫発症予防における継続的支援の現状や課題は明確になっていないと思われた。現在の患者教育や継続的支援の現状と課題、教育に携わる看護職の認識について明らかにし、継続的な支援プログラムの検討を行う必要があると考えた。

２．研究の目的

本研究では、乳がん術後患者のリンパ浮腫発症予防における継続的なセルフケア支援プログラムの検討に対する示唆を得るため、リンパ浮腫発症予防の患者教育の現状と課題、患者教育に携わる看護師の認識について明らかにすることを目的とした。

３．研究の方法

病床数200床以上の日本乳癌学会認定・関連施設に指定されている627施設に所属する看護師を対象とし、郵送法による無記名自記式質問紙調査を行った。

該当施設の看護管理者に研究依頼書、研究説明書を郵送し研究同意を得た上で、看護管理者から、患者教育に携わる看護師1名へ質問紙の配布を依頼した。研究同意が得られた場合、調査票へ記入後返信用封筒にて返送していただいた。質問紙は、先行研究及び診療報酬算定要件を参考に、フェルディ式医療リンパドレナージセラピストの資格を持つがん看護専門看護師と検討し作成した。調査内容は、施設の特徴、回答者の特徴、リンパ浮腫発症予防の教育について実施の有無、実施時期、内容、方法、教育に携わる看護師の認識について調査を行った。調査項目の単純集計・記述統計処理を行い、得られたデータは、患者教育実施の有無および継続的支援の有無と施設背景についてクロス集計を用いたχ二乗検定、Fisherの直接確率法を行い、有意性を検討した。有意水準は($p<0.05$)とした。また、入院中のみ実施施設に所属する看護師と、入院中及び退院後翌月以内実施施設に所属する看護師の群間で、認識の差があるかどうか、Mann-Whitney 検定を用いて有意性を検討した。有意水準は($p<0.05$)とした。

４．研究成果

（１）患者教育の現状と課題

依頼した627件中、273件の回答を得た(回収率 39.2%)。対象者の概要について、**表 1** に示した。

表1 回答者の概要

		件数	(%)
1. 対象者が所属する施設の特徴 (n＝396) 複数回答	がん診療連携拠点病院	149	(37.6)
	一般病院	87	(20.7)
	地域医療連携支援病院	82	(20.7)
	特定機能病院	69	(17.4)
	その他	9	(2.3)
2. 対象者が所属する施設の病床数 (n＝273)	200床以上400床未満	104	(38.1)
	400床以上600床未満	87	(31.9)
	600床以上	70	(25.6)
	その他	9	(3.3)
	無回答	3	(1.1)
3. 看護師実務経験年数(n=271)	平均±標準偏差:16.79±7.64年		
4. 乳がん看護経験年数(n=269)	平均±標準偏差: 6.76±4.25年		
5. 配属先 (n=273)	病棟	188	(68.9)
	外来	63	(23.1)
	その他	22	(8.1)
6. 資格取得状況 (n＝290) 複数回答	リンパドレナージセラピスト	57	(19.7)
	乳がん看護認定看護師	43	(14.8)
	緩和ケア認定看護師	23	(7.9)
	がん性疼痛認定看護師	6	(2.1)
	がん看護専門看護師	4	(1.4)
	皮膚排泄ケア認定看護師	4	(1.4)
	その他	15	(5.2)
	資格取得なし	138	(47.6)

患者教育実施施設は234件(85.7%)であり、234 施設のうち、入院中のみ実施 137 件(58.5%)、入院中及び退院後翌月以内実施は83 件(35.5%)であった。患者教育実施の有無と医療リンパドレナージセラピスト在籍の有無に有意な関連が認められた($\chi^2=7.177$, df＝1, $p=0.007$)。患者教育実施の有無とリンパ浮腫外来開設の有無に ($p=0.002$)、患者教育実施の有無と乳がん看護認定看護師在籍の有無に、有意な関連が認められた($p=0.000$)。また、継続的支援実施の有無と乳がん看護認定看護師在籍の有無に($\chi^2=5.055$, df＝1, $p=0.025$)、継続的支援実施の有無と乳がん看護認定看護師の患者教育関与の有無に有意な関連が認められた($\chi^2=5.722$, df＝1, $p=0.017$)。

患者教育の個別指導実施率は、入院中実施施設 228 件中 212 件(92.9%)、退院後翌月以内実施施設 84 件中 75 件(89.2%)であった。教育項目で実施率が高い項目は、入院中は「患肢の血圧測定や注射・採血回避の必要性」「患肢の負担軽減」「スキンケア」「リンパ浮腫の初期症状」であり、退院後翌月以内は「スキンケア」「リンパ浮腫初期症状」「自己観察の行い方」であった。放射線療法を受ける際の注意点」「化学療法を受ける際の注意点」「はいずれの実施時期においても実施率が低かった(**表 2**)。

リンパ浮腫外来を開設している施設は、273 件中、64 件(23.4%)であり、他施設からの紹介患者受け入れ可能な施設は、26 件(9.5%)であった。

表2 患者教育実施項目

教育項目	入院中実施 (n=228)		退院後翌月以内実施(n=84)	
リンパ浮腫の病因の概要	202	(88.6)	56	(66.7)
リンパ浮腫の治療方法の概要	166	(72.8)	54	(64.3)
リンパドレナージに関すること	180	(78.9)	70	(83.3)
弾性筒状または弾性帯による圧迫に関すること	145	(63.6)	56	(66.7)
弾性筒状や弾性帯を着用した運動について	101	(44.3)	53	(63.1)
スキンケアについて	205	(89.9)	73	(86.9)
筋のポンプ作用を利用した運動について	136	(59.6)	58	(69.0)
肥満の予防や体重管理の重要性について	163	(71.5)	67	(79.8)
衣類の選び方について	202	(88.6)	65	(77.4)
患肢の血圧測定や注射採血を避けることについて	223	(97.8)	68	(81.0)
指圧マッサージ・鍼灸について	148	(64.9)	55	(65.5)
患肢の負担や加重軽減の必要性について	218	(95.6)	68	(81.0)
感染症の発症・増悪時の診療・投薬の必要性について	181	(79.4)	66	(78.6)
リンパ浮腫の初期症状について	205	(89.9)	73	(86.9)
リンパ浮腫が発症しやすい部位について	183	(80.3)	65	(77.4)
自己観察の行い方について	194	(85.1)	72	(85.7)
患者会や相談窓口の紹介について	104	(45.6)	43	(51.2)
リンパ浮腫ケア用品について	97	(42.5)	42	(50.0)
化学療法を受けるときの注意点について	81	(35.5)	37	(44.0)
放射線療法を受けるときの注意点について	71	(31.1)	35	(41.7)

以上の結果から、個別指導実施率やリンパ浮腫指導管理料算定要件に沿った教育項目の実施率が高く、リンパ浮腫発症予防の患者教育が均てん化されつつあると考えられるが、その多くが入院中の実施に留まっていることが明らかとなった。

患者教育実施項目が多岐に渡ることから、リンパ浮腫予防に関する幅広い情報提供があると推察されるが、一方でリンパ浮腫治療が予防教育として患者へ伝達されている可能性もあると考えられる。プログラム検討にあたっては、発症予防の観点から教育項目を抽出するとともに、発症リスク等の個別性を踏まえ、情報提供の可否を検討していく必要があると考える。

継続的支援実施の有無と乳がん看護認定看護師の在籍や患者教育関与との関連が認められたことから、乳がん看護認定看護師が在籍していない施設に対し、継続的支援を実施できる体制を整備していく必要性があると考えられる。また、リンパ浮腫専門外来において、他施設紹介患者の受け入れ可能な施設が少ない現状も明らかとなり、他施設や専門家を含め、連携強化の必要性も考えられる。

（２）患者教育に携わる看護師の認識

「所属施設内教育の浸透度」について、入院中及び退院後翌月以内実施施設に所属する看護師の方が、教育が浸透していると認識しており、入院中及び退院後翌月以内実施施設と、入院中のみ実施施設に所属する看護師の認識に差が認められた(p＝0.029)。また、「患者教育の現状に対する認識」は、入院中及び退院後翌月以内実施施設に所属している看護師の方が、現状で十分と認識しており、入院中及び退院後翌月以内実施している施設と、入院中のみ実施している施設に所属する看護師の認識に差が認められた(p＝0.002)。「翌々月以降も患者教育を継続的に行う必要性」に対する認識は、群間で認識の差は認められなかった(p＝0.771)。

「翌々月以降も患者教育を継続的に行う必要性」について、入院中のみ実施施設に所属する看護師の認識は、137 件中「必要だと思う」73 件(53.3%)、「まあまあ必要だと思う」63 件(46.0%)であり、入院中及び退院後翌月以内実施施設に所属する看護師は、83 件中「必要だと思う」48 件(57.8%)、「まあまあ必要だと思う」30 件(36.1%)であり、いずれの群も必要性を認識している割合が多かった。

リンパ浮腫発症予防に関する患者教育を行っていく上で今後必要だと思われることについて、複数回答で求めたところ、回答件数が多い項目は「患者教育に関わる看護師の知識や経験・技術の習得」「患者教育を行う時間の確保」「乳がん患者の看護に携わる看護師の看護師のリンパ浮腫発症予防に関する認識や理解」であった(**表 3**)。

表3 リンパ浮腫発症予防教育において今後必要だと思うこと

項目	件数	(%)
患者教育に関わる看護師の確保	159	(8.4)
患者教育に関わる看護師の知識や経験・技術の習得	211	(11.1)
医療リンパドレナージセラピスト等の専門家の人数の確保	169	(8.9)
患者教育を行うための時間の確保	183	(9.6)
患者教育を行う場所の確保	114	(6)
他職種のリンパ浮腫発症予防患者教育に関する認識や理解	124	(6.6)
看護管理部門のリンパ浮腫発症予防に関する認識や理解	103	(5.4)
乳がん看護に携わる看護師のリンパ浮腫発症予防に関する認識や理解	183	(9.6)
他職種との連携	137	(7.2)
地域医療との連携	71	(3.7)
診療報酬の改訂	115	(6.0)
リンパ浮腫発症予防ケアの効果に対するエビデンス	155	(8.1)
リンパ浮腫発症予防に関するマニュアルやガイドラインの整備	174	(9.1)
その他	5	(0.3)
特に必要はない	0	(0.0)
合計(複数回答)	1903	(100)

「所属施設内教育の浸透度」の認識が異なる背景として、継続的支援実施施設は、施設内の教育や研修等が整っていることが考えられる。また、研究成果（１）で示されているように、継続的支援実施の有無と、乳がん

看護認定看護師の在籍や、患者教育関与の有無との関連が認められたことから、乳がん看護認定看護師による乳がん看護に関する知識の伝達があるものと推察される。

「患者教育の現状に対する認識」は群間に差がみられたものの、退院後翌々月以降も患者教育を行っていく必要性に対する認識については、いずれの実施施設に所属する看護師においても、継続的支援の重要性を認識していることが明らかとなった。これらの結果から、退院後翌月以内に限らず、退院後翌々月以降も継続して実施できるようなプログラムの作成、実施体制を検討していく必要性があると考える。

対象者は、今後の患者教育の検討事項として、多岐に渡り必要性を認識していた。プログラム検討にあたっては、プログラム内容の検討のみならず、連携強化や、患者教育に携わる看護師へ、リンパ浮腫予防および患者教育に関する知識や技術等の教育充実の必要性が示唆された。

研究成果（１）（２）を踏まえ、プログラム検討にあたっては、発症予防の観点から教育項目を抽出するとともに、他施設や専門家を含めた連携の強化、患者教育に携わる看護師への教育充実を検討していく必要性が示唆された。

＜引用文献＞

1) 作田裕美・他：乳がん術後リンパ浮腫を発症した患者のＱＯＬ評価．日本がん看護学会誌，21(1)：66－70，2007
2) 大西ゆかり，野本ひさ：リンパ浮腫患者のＱＯＬに関する研究．日本看護学会論文集　第 37 回成人看護Ⅱ：35－37，2006
3) 香川直樹，福田康彦，下村学・他：乳癌術後上肢リンパ浮腫の予測因子．日本臨床外科学会誌，68(5)：32-37，2007
4) 作田裕美，宮腰由紀子，坂口桃子・他：乳がん術後患者におけるリンパ浮腫発症予防行動に関連した知識の獲得と活用．がん看護，10(4)：357－363，2005
5) 作田裕美：リンパ浮腫　ケア技術とセルフケア支援．日総研出版，2009
6) 内田直子・伊藤和子・永田友美：乳がん手術後患者のリンパ浮腫指導教育の効果－周手術期からセルフリンパマッサージを取り入れて－．日本看護学会論文集　第 39 回看護総合：185－187，2008
7) 大久保茂美・小石美登里・森川華恵・他：初発乳がん手術後患者が看護師に期待する退院指導の内容．日本看護学会論文集第 39 回成人看護Ⅰ，57－59，2008

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　0 件）

〔学会発表〕（計　1 件）

<u>鈴木敦子</u>・吉田俊子：乳がん周手術期におけるリンパ浮腫予防の患者教育の現状に関する実態調査．第 26 回日本がん看護学会学術集会、2012 年月 12 日

〔図書〕（計　0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者

鈴木　敦子（SUZUKI　ATSUKO）
宮城大学　看護学部　助教
研究者番号：60527901

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし